no. ~~4~~3

平新報

每月三回
五ノ日發行
發行兼編輯印刷人　山野邊庄吉
發行所　福島縣平町[illegible]一九　平新報社
廣告料　五號十二字詰一行一回[illegible]
場所指定倍額
定價一部郵送共拾錢

聲明

動勢こうなりや　第一線に立ちて

主幹　山野邊庄吉

▲人の悪いは磐城の平と聞いて居つたが以前居つたときはそうとも思はなかつた、然し旅して歸つて見ると成程そうだ悪いから悪いと申す迄である

▲筆者は新聞を發刊するに先ち先づ新聞經營の原則として一年間位の經營費を得た後第一號を發行する心算であつたしかし時が悪いのか、駄目であつた。

▲又別に味方も要らぬが一人でも敵を貰けたくなかつた……がこれも駄目であつた、

▲本社の創立と同時に平の銀行等を訪れてあの新聞を出して駄目だから援助をせぬ様にと運動をして歩つた某紙の人がある

▲平地方の有志は新聞に中毒して居ると見えナルベク援助をせぬ方針に傾いて居る否な、さう腹で決めて居

▲此處ダ、貰られた喧嘩は買はねばならぬ、社會の公器である、文明、立憲治下にのみ與へられたる新聞紙を理解せぬ等との時代遅れの頭の持主に向つて啓發運動に力めねばならぬ

▲ある人は平に新聞が多過ぎると、何處の人口と富と比して……が新聞の多い程結構、なぜかならば若し某銀行に不正事件ありとする一ツか、二ツの新聞では買收されて了ふ、が多くあれば金で何とも出來得ぬ氣骨のある紙がある、そうすれば一般株主、取引者の味方となつて公益する

▲又本紙を憲派か政派かと聞く人がある、既政々黨……吾が農村迄その闘?根情を波して朴な農夫の頭を乱して居る、然し本紙は人物本位主義本位で本紙の主義主張と合致せばいつなん時でもその人の爲に致すを惜まぬ、故に主義合ずば昨の味方は敵にするかも知れぬ、要は人物本位だ援助をして呉れる志が吾が黨の志だ、何故ならば是れ本紙の主張の遂行を援て呉れるからである

▲かくものじ來つて吾れも亦地方に生息する一人として大河の流る、そを堰き止むる微力なる筆者の良くする所にあらず、その渦中……に投じて戰の子として進まねばなるまい

▲今や早や守つて許り居れぬ、正當防衛!タイムとプレイス、相手によりては攻勢に出でねばなるまい、本紙の出現を妨げた人々……筆者は不意打ちはやらぬ、戰は須く堂々たれ、君等が本紙を財的に虐げ様とならば當方も財的で攻め様、腕力も亦辭せぬ

▲公事を事實を事實として報道してそれで援助否ナ敵意を持つ人はそれでよからふ、人吾にツラケレば吾又應せねばならぬ

▲何故に日刊にせぬかと申す人がある、日刊にする可能性はある然し日刊では平市街にのみ配るなら兎に角地方町村に布くには日刊では郵送力が續かない……即ち本紙發行の主旨たる地方振興農村開發のため共同宣傳啓發の意を充たするを得ない、故に經濟基本の固る迄當分旬刊で日々の雜報は他地新聞の支局と當地發行夕刊諸紙に讓つて置きたいものだ、

▲日刊は日刊としての使命あり、即ち報道は迅速を旨とす、旬刊は旬刊として拾日を通じての社相の正確の紹介と同時に新聞の新聞、日新聞記者の批判といふ立場に在る

▲さはともあれ、吾々同業者は相互に人を踏みつけて吾のみ育たんとする如き弱肉強食的態度しあくまで、善か[illegible]互により以上自[illegible]業者地位の向上に力むる是れ吾々文化事業として進むに易からしむる術ではあるまいか、

▲新聞の爲に寄せられた等といふ人は己れを知らす己れが欠點を棚にあげて居つての見地ではあるまいか、新聞紙に依つて得た利益を忘れてではないでせうか、操り返して曰ふが若し現代に新聞がなかつたら?官金の横暴?は封建時代と等しいものとなりはせぬか、此處に於て吾々同業の責任と使命の重大さを深感するものである、

▲筆者將に第一線に立つに臨み聲明の一端をなし新聞紙に對する理解運動をなさんとするのである

風光!

を看取せしめよ

磐崎村建德寺
佐竹悠湛

凉風綠蔭を吹くの好時節
呱々の聲を上げた平新報
祝杯三度五尺身
主幹は余が親友
その磐中時代嚴父の寂に逢ふたは不過の第一歩
卒業後の數年事志と違ひ飜然起つて渡鮮
札に和し月に歌ふこと彼地に六年と言ひば、暢氣そうじやが左に非す
眞さに、辛酸を嘗めてござつた
大は愛する者の爲に艱難を與ふか
今搖籃の地に歸り最も愛好する事業に向つて悟得の端を啓く
小なりと雖も磨ける玉は瓦礫の大に優る
哄哉!
主幹が操觚の遊戲三昧はその撰自ら他と異るべし
[illegible]出たばかりの平新[illegible]くべ
只琢磨と雖も多作必ずしも傑作にあらざるべし
酒の濃かなるは豈多杯に依るべけんや
本來具足の活眼を開せしめて社の風光を看取せしめよ
然りと雖も盲者の見ざるあり
そは日月の咎に非す
只々光滋味[illegible]き發展仲々張
是れ祈る

無言　永耿

故子爵安藤信篤氏令弟
磐城商工時報社

安藤信義氏

同紙上に曰く

平新報主幹山野邊庄吉君は磐中出身後磐城辯論會を起し獅子吼して居たが何時とはなしに姿を消してしまつた、そして友人は暫く君を忘れた處が先月頃忽然と平驛頭に現れ郷土の爲言論機關を設けて農村振[illegible]力じやとて平新報[illegible]のである、[illegible]を去つて朝鮮に活[illegible]多方面に何もの[illegible]したのでおらう性[illegible]眞になつ

た尊は寶に嬉しい、好漢惜むらくは金に惡まれてゐない。今[illegible]たる不斷操觚界に何等背景なしにうつて出た心事については壯とせねばならぬ、只今後は娼婦に似たる政黨[illegible]に[illegible]せられざらん事を思ふものである。

磐城立憲新報　曰く

小泉宗雄氏經營

玉川山野邊庄吉氏は多年朝鮮に在任操觚界の戰線に立ち惡化せる思想改善の爲めに筆に言論に極力絶叫し其貢献實に大にし今春一身の都合上郷里に歸山し今般平町の一角平に新報を創[illegible]粉骨以て地方開發民心作興のため健筆を振ふ由

漫言

早大出身　著述業
山田綠雨

▲石城郡平に所謂『新聞記者』多い全く以つて多い。多過ぎて私も多しかドウカは知らない。サテ私は新聞記者の眞似事をやつてみた事があつた。厭な商賣…だ。ホントニ嫌はれる厭な商賣…だ。而も物質的生活は決して恵まれたるライフではない。タバコ錢にも困る事が度々ある。殊に私の様な酒好きの飲んだくれのダヽイスト(自由人)-そしてボヘミヤン、ライフを持つものなどは酒屋の前を『遺憾千萬』と愛人と生別する様な哀感を抱いて悲劇的心理を以つてソッポ向いてかけぬける場合もしばくだ。讀者諸君……それほど左様に文筆勞働者は文化業者はプーアだ。斯くの如きは赤裸々の告白である。

[illegible]つて生き恃[illegible]恰も樂前[illegible]の別名私の[illegible]かゝし哀々[illegible]て三筋の糸[illegible]命』の果敢[illegible]る境涯』[illegible]こと寄せ[illegible]躍れど

人諸君……私は除外例としても他の記者諸君をもう少し優待して下さい理解ある態度を以つて記者を迎接して下さい。

△記者は由來『嫌がる善人』だ。コノ世路辛らき世の中に一管の筆爭以つて文筆勞働者生活を營む事は全く以に兩親同胞さては二世を契りし愛人の上に思ひを走せ『人生不如意』『人世無情』と喞つその美的ソシャリストにも以たる哀感は、嫌がる善人、の群…記者諸君の身の上にもないではないか。記者……藝者……職業は違へど等しく余りめぐまれざる生活を送るものだ。少くとも故山石城平に於ては。記者に役徳なく。藝者に祝儀なし呵々

△山野邊君……君は決意一番雄壯に第一線に立つ刀折れ否筆劍碎るまで戰つて呉れ給ひ。私は少し草臥れた。君は『闘將の面影』がある。男子一片稜々の圭角がある。親愛なる文友山野邊君シッカリやり給ひ。

【次號に石城紳士の半面をものします】

豫告!

▲湯本町

資本家(炭礦經營者)のため惨虐されたか、利せられたか、多年歴史ある湯本温泉町は兎に角今回復活せりといふその町目下の緊急問題たる、▲小學校移轉問題の經過又は最近起つた區會議員選擧に於ける賛票?の問題の眞相を確むべく本社では高木町長其他の有志を訪問したるがその報道は都會上次號に廻した

▲玉川村北方農村

玉川村、磐崎村等は磐城入山等其他炭礦の採掘せさる前は有無農村でおつたがその採掘始るや年々洪水の被害にて實に悲惨の窮狀に[illegible]加ひて近々鑛毒の[illegible]に接して居る右[illegible]ては地方農民[illegible]所論を之れ[illegible]します

社告

草野卓也

右先月二十六日[illegible]時囑託と[illegible]本社客[illegible]一身[illegible]

二八會友動靜

磐城中學校第[illegible]

◉長瀬元治郎氏　身踩後鐵道省在[illegible]住所東京府下高[illegible]谷古木田四七五[illegible]方

◉比佐榮一氏　慶[illegible]町過般夫人を迎[illegible]若主人として納[illegible]

◉山野邊久利氏[illegible]りまで平稅務署[illegible]のうだが目下、[illegible]町下閉伊稅務署[illegible]

◉鯨岡潔氏、湯[illegible]長として赤ちや[illegible]

◉新妻一郎氏、[illegible]尉、石城郡書記[illegible]舊城跡愛媛二人[illegible]

◉鯨岡久一郎氏[illegible]會議員として第[illegible]した小供さ[illegible]

山野邊庄吉、◆祝詞　時の農商務大臣仲小路廉　今の衆議院議員比佐昌平　時の今第一小學校長今の平商業學校長武川教義、◆時の衆議院議本寅彦、◆極小は極めて通す　時の磐城時報社主幹士屋覚美、◆東京だより　今の文士尾崎士郎(段山)　◆術生と根氣、鶴龜堂壽一即ち南町鈴木醫院長鈴木壽[illegible]氏て故人となられた由、◆救世軍とは何ぞや　救世軍[illegible]◆家庭の副官少尉日野辰夫[illegible]◆一ッ永井非柳太郎[illegible]◆婦人の心[illegible]◆チャン米飯[illegible]◆ガラ念佛と宮相撲　磐城通信社内上遠野、◆藝苑雜感比

二一—参銭ポス[illegible]

◎綴驛頭にて私[illegible]

▲所は石城郡内郷村[illegible]近での活劇を、時は[illegible]月頃だつたか、ある青年が[illegible]男に打れ、又[illegible]して居る、こ[illegible]これを綴驛長は默つて見ぬ振りをして居[illegible]は何故打たれて居るのか、この青年[illegible]何でもこの青年は[illegible]その衆人の前で打ち居るデモ紳士の旅を[illegible]して炭礦附近有志に新聞援助廣告を求たとの事實の所その青年は右デモの親戚でもなんでもない[illegible]が偶然にも綴驛頭で會つた、彼デモも憤怒の極腕力[illegible]制裁を加へたのである、丸で私刑だ何故擲たねばならぬかそれ程[illegible]心外に堪え[illegible]明には新聞[illegible]ふもある、默つて打たれて居る青年は青年としてこの非紳士的處置についてこのデモの[illegible]八格に[illegible]あきれて居る、[illegible]丹後澤の鯉に似て居つた[illegible]野生

▲平町町議宅が和合[illegible]所平町某町議のうちでは時[illegible]藝妓と某會社重役の密會をなすとか一ッこの町議宅[illegible]待合の許可を得たらよからふ

▲新田町雀[illegible]町新田町吾盆[illegible]時折不當[illegible]ます遊野郎の弱[illegible]

▲不[illegible]料亭けこんでボルか[illegible]をなし[illegible]理につ[illegible]

▲郵稅の二重取[illegible]郵稅を二重取り[illegible]

銘酒　玉の井
醸造元　長瀬半五郎
福島縣石城郡玉川村

自治に就いて
安藤琢磨

右は小名濱町に於ける演題で所に依つて演題も異り辯題

◆婦人の領分として母として見識の持方　文學博士三[illegible]◆雨時の小學生の作文[illegible]丸山直一[illegible]◆產業組合に就いて[illegible]◆踏むべき道、血氣の早[illegible]◆磐城人物紹介　玉川村[illegible]江尻中山野邊金次郎氏の七[illegible]◆磐城辯論會記、◆玉[illegible]學兒童の人命救助として[illegible]川野田小松忠平が女兒を救助して時の川崎知事に表彰

か知らぬが保君が使となり筆者の實家に留守の所へ行つて關係帳面其他取り上げたものだ、勿論兩雜誌の印刷費は小野庄一君が出資したのであらうが約半年近く其間自費を出して石城郡は勿論郡山迄活動を續けたその旅費又は社の一切帳面印用紙等のその費用は何處からも出て居らぬ、皆々筆者が自辨したものである然し雜誌が出てから三十圓足史なども裏面史を見ると想像以外なもので、此處自他ともに裏面史はさけて進めることとするが事は事として紹介して行たいが要するに勘定が感情で物別したのだつたと思ふ……同志は今何處か……それはそれとして時の統一會の人々はどうなつたか、農村開發と何とか大分理想めきて社會に否な地方振興と名分は良つたが今尚は統一會は存續して居る

く見られるがその當時はそんな事はなかつたのだが今から考いて見るとそうであつたかも知れぬ。何が故にて申すに比昌は勿論[illegible]比氏友情關係だらふが惡政の人であり小庄然り、加新もその派幹事となつて居る、感激より家居……前述の如き事情から統一會を去つて家庭の都合もあつたから自村玉川村に入つて又も農夫となつた。その理[illegible]と共力して忠魂碑を立てた在軍では駒木根忠三君青年ではかく云ふ筆者が中堅となつて骨をおつたものだ尚ほ自分の家である岩出より住吉に通ずる道路の改修を企てたが其費を上げ得ずして渡鮮してしまつた。家兄は家出しておるしその間の整理も大分出來次弟が徴兵檢査も了へて次弟の性格農を好み直を知つて後事を託すも大丈夫と云ふ信念を得たからである。【つゞく】

日本石油株式會社專屬
海岸線特約販賣店
平町二丁目
諸油類
度量衡器
販賣
清関内油店
店主　關内正一
電話[illegible]
油槽所[illegible]
支店油所　茨城縣多賀[illegible]
電話[illegible]

公開狀

經濟的に本社を慘遇する無理解な小田部仙臺遞信局長

山野邊庄吉

本社は三種郵便物認可を仙台遞信勤長宛に去る八月二十四日附平郵便局に提出した、所が去月十五日附平郵第一〇四五號（本社受同月十六日に）全部無代ともて認可相成難き旨示達内容の一節の通達があつた、願書を提出してより其の間二十六日如何に官廳の仕事でも荏然一ヶ月近くも放任したら にはあらざんもがくかゝりたる如きは不可解に堪えない、本社は出來得るならば一部發送五厘ですむのであるから四倍の二錢は勘定として納めたくない、のでその爲認可が今か今かと思料し休刊した事もあつた●何故に認可なり難し……ならなり難しと直ちに示達せぬか勿論願人は第三種郵便物認可の範囲程度を精しく知らんので平局よりの調査員に對して正直に第一號は全部無代配布なりと答へた事は事實である、然し將來の事は全部實捌するか千部は一万になるか豫測し難きに付答へなかつた、右について平局長は本職には認可の權限ないのですからネ、と然り權限は與へて居らぬだらふ然し調査復命の添書は何人がなすや次に第二號を出してから平郵第一〇六三號本年九月二十四日附本社廿五日受に單に發刊の挨拶及び廣告記事のみにして願書の記載事項と合せざる趣を以つて認可難相成詮議難相成示達の一節一旨の達しをうけた、仙台本局管督課の係に伺ひたい願書の記載事項とその願書には學術技藝統計及廣告である、第一號、二號兩號にもその掲載事項に 合しゐらずや、第一號の挨拶中新話誌動中節觀に倉拾年川柳、二號の秋風來週二號と申しそのいづれかに 合せぬとは申せますまい係員の認業眼に疑問を抱くものである、それはそれとして從係認可しつゝある刊行物は果して利規の通りであらふか、その不備なる刊行物に失効せよとは申さぬが彼れに翼にこれに嚴備處置ありと雄せざるを得ぬ点あり學術枝藝統計廣告とは始何なるものなりや小田部局長に紙上を以つて御教示を得たいものである

一寸福島へ

山庄生

社の用務にて一寸と福島市まで行かねばならず、去る九月二十一日磐越東線平驛發午后二時五分車中の人となつた、朝鮮ならば滿鐵車二等待遇なれど三等車然し八年前のマッチ箱ではなくボーギ車であり開設當時の様には搖れない、赤井驛を

け

流る、その

に反して水花とな

る、……山上鳶天空高く飛ぶを仰げばその間トンボ遊び、雜樹林は金山青色をなして所々ツリ鐘あり朝鮮に生つた南鮮附近内地人の兇は本國に來る折玄海を渡つて下の關につけばその樹木を見るやオー大きい事と叫ぶが常であるがその子共等にこの磐城の耶馬溪と稱するこの景を見せたら彼の子等は何と呼ぶだらふ、この波面丈余の、山腹を長蛇の如く線路上の里すりは ろ

へ、この

首を出さねばな

恨むらくはトン

事なるがこれも

辿と思ひば何

も思はぬ處に角いつ見もこの景筆致はにものし難い、春景も良いが秋色？すて難い、川前近くなつて郡電の發電所があるその地大分落差があると見え上流から山腹を通じて電氣を起してゐる、この社以前夏井川水電と稱して居つた、此處にもな平人の 氣地なさを……なせかならば發電所が石城郡内であり電力使用は平地方然るに郡山人の經營である平人の一部の人が株を持つてゐるに過ぎぬ、何故に當時この電社を郡營にせなくなつたなふか故河野廣中氏の永眠の地三春、船引附近になると

このハヤ郡山市の商圏内で桑、木炭も相當に出る様だ煙草は今收穫盛りでマダ畑に青いのもあるがそれぞれもぎさられて乾はしつつあるのもあつた様だ稻作は外見では石城の方が良い様だ城山に着いた次の列車は急行だ此處で急行券奮發、この地筆者磐中時代姉が此の地で敬鞭をとつてゐられた、關係上より來た地なれば下車もしたかつたが用務が急いたので恩師俳號雪人即ち元磐中校長故西村岸太郎氏、市長大森吉彌氏等に、心中敬意を表し、青森行の急行に上車馬鹿にごんでゐる恩師平富小學校長の篠山先生のゐらゝ本宮二八會友安途中學敎論岡田朝五郎君のぬる日本松も過ぎて福島にく。同日午后七時二十分いや涼しいを通り越して寒い、兎に角停車場前藤金支

店に宿

不具者へ

からアン一

奮凌してや

このアンャ

級のこの男、

い、然しお

へぬので、

たが翌朝に

た茶代は癈

が茶代を置か

ならば旅館は宿

けて居る、然し

壹圓その内筆者その

猶發中と異り旅館に

入らぬから氣持良い悲

旅情！夜三更亡き父老いる母、いつこを漂いゐらるやらの兄、獨身を生活否な末婚として目下湯本聚公會幼稚園に精神生活を續けつゝある妹家居の次第細ノも小名濱にて商を營む末弟友知人、そたからそれへと思ひ波する時、我が心は高潮に達して人生とは運命論、何々と智より理情に至て號泣せぬまでにも悲 を感せざるを得ぬ、二十二日はやくより宿を飛び出して百七銀行マだ開店せぬなる稱午前八時九時にすまし縣本ビルブローカ、次は日本銀行縣支店から縣廳の會計係警察部高等課、會計課長にツ縣廳の門標は字形が少し制らず只一枚敬をかけてゐる大きな建物だから縣廳と思つて入つたがあれでは警察當りで個人の門標掲示／喧し するが本元として怪しからぬですな、とやつたらへへこの頭小さい標札が流行するからそれにしませうだ、そうすると官廳の標札には規定がないのかしらぬ課長まだ曰く、平に新聞多いと御十元の福島に

も

遇ず

を表し

齋藤　と

土の先輩元參

福島農工銀行

白井博之氏に　を表すべく福島警察裏の同所を訪れた心よく頭取室で會見してくれた、これより 君と白井氏の會談中他方の新聞が大をなさむと言ふのはあまり地方有志が黨派根情での爭ひを好み己が機關紙をして 黨人の惡口を殊更に營々して快なりとし大同團結をなし得ず相攘してゐるので芸ないでせ〜か、それもあるであらふ然し新聞經營者が相互に天ぐで團結出來ぬのだ君が云ふ如き色形の鮮明な新聞はツム磐城當然そうかナ嗇ー報は別だらふ新聞經營者が・々天狗とはそれば誤解でないでせうか。彼の富源地即ち海岸炭山農村と官廳こそ福島に劣るが平地方に勝つて居りますまいか然し新聞藍者巡査等はその土地に相遍して行く相ですからね

町會議員　菅波駒之助

町會議員　若松忠兵衛

平町議訪問記者これは面白いでせう

談論風發 正に地方政界問題に入らんとする折諸賢の記者が入つて來たので辭し同日午后二時四十分發歸途についた船引附近で暮色來り海拔二千五百片會根山を西に海拔二千七百移か嶺を東に刻々暗色を下弦の月が出るよみにて車內の寄りを一なつた欅の樫村中野ツ倉分署長森予保氏等に朝鮮事情紹介を一寸やつたがきからとせんか中止してたするうちに夜の平にきた

人が義務援助せうと君に

は關係ない事

◎目黑氏當行時の磐城新聞へ筆者四ッ倉町門馬安次郎氏の次男次郎君死亡さツタ御機廣告を申し込んだ、八圓の掲載料をとつて記事に曰く、門馬氏のを入れず次男……だと勿論より先に死んだら不幸か知れが何故、氏を入れ、不幸

一路往復十八日間

朝鮮滿洲 視察談

諸橋守次氏語る

中外商業新報主催滿鮮視察團に鈴木邦三郎、松本德一郎の兩氏と一行二十六名に加つて九月三日平出發同月廿日歸平した平町釜屋商店若主人諸橋守次氏は往訪の筆者に次の如く語る

東京からは齋藤朝鮮總督夫人と一緒であつた然し御夫人であるから話しも出來得なかつた京城驛に着いたら同夫人への歡迎振りは大したものでしたよ、行きは下の關から釜山、歸りは大連から神戸で歸途の大連から神戸までは滿鐵社長安廣伴一郎氏と同般で種種御意見も承つたが行きに總督夫人歸りに滿鐵社長此處に何か緣因があつたでせうまあ幸運でした、その十八日の旅程は要するに玄關口から入つてローカを通つて奧から出た様なもので此處は入口此の室は應接室なんと自すべき場所その說明を得るら來た許りで君歸から見たら汽車視察に過ぎぬだらふから牢つからお話は出來ぬ、兎に角相當金のある人はあまり持つたい振らず二週間もかゝらば有に視察出來るのだから、百分一見 に如ずとやら視察をお其さしたい、釜山大、大囚湖南鮮には入らず京城で昌德宮慶昌苑も拜觀しました金剛山に行きたかつたが行かれず殘念でした、朝鮮人の人は大体內地語を解してゐるらしく通譯の必要ない様でした、鮮人個人の經營の、朝鮮製糸株式會社も視ました、片倉組信州なんか相當活躍してゐる様です、平壤では、キーサン學校を見ました此處の以前の平壤女學校舍の建物でした、キーサンが扇子に即筆で書、書をかいて呉れましたよ、支那人にしろ鮮人にしろ字はなか〳〵ウマイものですね、それも幼少でね、　綠江は夜間で判らなかつたでちよ玄海 ですか七燈島の景色なんか良いですね、あれにモし少し樹木が有つたらね支邦へ行 つては支那人個人の活躍は長るべきものです、時折那人慘殺があるとかで厥警戒中の様でした領事館滿鐵、何々とその見合はす支離、裂してゐるとの事だ相です、朝鮮は勿論道路の並樹はポプラアカシャが兩側にあつて道路は立派なものでした、私の視察は丁度大連博覽會九月十八日閉會に案內をうけたものだから、要は早く視察して その考いから視△したので本當の視察は二度目個人的に自由視察に最りませうネ、關東廳では支那人は無料教育をなしてゐる如くなかなか大徵の計劃の下にすべての施設をなしてゐる様です△鮮の事は君の前ではあま滿の話をしませう（つゞく）

◎鴨綠江節　凡倉作

平出て撰大急行で
釜山にと上り
大ク　安田　京城驛
平壤こえて
ついた所は　新義州
江を又渡れば支那の國

◇　◇

釜山出て　一の波　二
の浪　三四の瀨こえて
着いた所は下の關
打つて丁寂　電報を
そしたら文私も安堵する

鐵脚縱橫

平町會議員禮讃記

日ク日クと其印象

生活即政治、平町に住むものとして、平町治に直接參與する町會議員を知つて置かねばならぬ、引いては議員諸卿の抱負も聞かねばならぬ、即ち町議の意見の如何によりて吾々の生活に直接間接に影響し來る事は火を睹るよりも瞭らかである、是の意味に於て筆者は陰秘の去る七月十一日より十三日の三日間に亘りて各の門と胸を叩いた、左はその偽らざる訪問の卷である

當人の唯次郎と會見得す一寸もの足らずいづれ機あらば

▲井上茂作氏この人も町子息貞治郎氏で諒解決

▲星野淸吉氏名刺と交換で三分の一

△荒川淺次郎氏

星野氏を先にまお鉢山へ行つて來なさいこの旺星野にはまだ會見出來なかつた一歩譲つて佐藤氏を決めて來たら今度は星野氏へと指歸る荒川さん、アマリオモチャーするないと職人肌合

を記者のヒザへャゲ返した記者のハラの虫は逆立ちした然し護身用……靜觀丸は冷やかに「御前の心を靜めよ」とこゝが動中靜觀だ又一つ側らに居つた役場か刑事らしい人、人の部外秘の帳面をコトワりなしに檢しての批評ナンダイあの人は彼吉田氏は挨拶も何もせずサッサと仕事場へ行つて了つた、この人

自由の詩　凡倉生

やつと會見一回一圓で三圓でないとはナンダこんなだとは笑はせる然し御母堂が讀むんないとは何んだ青のアシライ正に京に居ら譯さん御身がどんどん熱口れたとか堂々なるも容律をかけと筆者を喝しそゝの過は土方式でないかした導はマサカ言になか

▲阿部政右衛門氏

屋で吾妻中卒の先輩定

▲櫻井清氏 人並にと參

日を期して御抱負は紹介します

△花澤久一郎氏

大谷久藏氏こ相談してとこの人大谷氏と情死するかも

つたとは許されますまい、原に角惡い事あるかないかは知らぬが奮けといふ所を見をとるかも知れぬ、加ひてこんな狹い平でと御しやた何處と見して狹いのか市制準備を控えての大小表達せんとする秋下話自らも住む市街が狹いとはしい

桐原元石城郡長は朝鮮で水利組合理事

◎石川元朝鮮全州署長は太久村に歸農

◎朝鮮は全羅北道々廳所在の全州で警視署長をして居つた石川倉吉氏は辭して警署に判事をして居つた柳井義一君と共に福島縣双葉郡久村に歸農して居るとの事でこの頃村長になる噂さがあつたかなり損ねたらしい

や太郎氏は病氣全快し從前の通り診療中

玉川村

記念文庫創設

祝

湯本區會議員　渡

町會議員　白土

渡

學務委員　戸松條助

泉屋洋服店

馬目政治

箱崎義一

鈴木勝

井坂千

鐵脚縦横

平町會議員禮讃記

曰ク曰クと其印象

生活即政治、平町に住むものとして、平町治に直接參與する町會議員を知つて置かねばならぬ、引いては議員諸卿の抱負も聞かねばならぬ、即ち町議の意見の如何によりて吾々の生活に直接間接に影響し來る事は火を睹るより瞭らかである、是の意味に於て筆者は陰曆の去る七月十一日より十三日の三日間に亘りてその門と胸を叩いた、左はその偏らざる訪問の巻である

先つ社より一番近い

△柏原貞吾氏へ刺を通じた心よく會見新聞紙に對する希望も述べて呉れた、あつさり氏は三枚贊援して呉れた次は

△野崎藤藏氏 中川村出身 憲政會の人親方の井上さんや青沼氏へとこの人井上青沼兩氏の何でも後に仕事をするのか知らん、御當人の意志の表示を求めるので他人をダシになんとは兎に角一歩讓つて後で井上青沼の兩氏も決つたから二度訪るゝと門前拂ひを食つた

△岩本重雄氏 いや急がしい、新聞なんか見て居れぬとサッサッと出て行く

△佐藤芳松氏 中銀行で ダメダ銀行關係を振りマハして馬鹿に遠慮して居られる他の社からの逆贊が畏ろしいのだらふ

△佐々木龍若氏 磐城銀行で まあ話しは判つて居るがセミサラリマンだからとて半額の援助

△丹野榮三郎氏 判りきつて定額コチラで面食つて了つた

△渡邊貫一氏 二回訪問で會はれた、記者は會はれぬ内は何時でも訪れる然し會つてマツけれは同じ問題でなるべく二度とは訪れぬ即ち時間の經濟上これが記者の希望だ、初め番頭らしき人渡邊氏當人らしい顏で挨拶して居つたが議員諸卿の御顏も知らんで居つてはと……やつたら御當人が出て來て定額入した御意見はなかつたが紳士的の態度であつた

△鷹崎貞衛氏 二度目に玄關での交渉大分立ちながら新聞紙に對する御希望がつて定額

△會川卯三郎氏 種々意見の交換の結果定額の三分の一いくらでもよろしい援助をうけに行つたのだから心持ち良く出して呉れるには、その心持をうける

△遠藤林松氏 庭園の御手入最中不景氣だからと三分の二店先には腰カケ客が拾幾組居つたケ

△大谷久藏氏 四回目にやつと組合の事務所で今日はないからと定額

△阿部唯次郎氏 御子息岩次氏で事決り定額、御當人の唯次郎と會見得ず一寸もの足らずいづれ機あらば

△井上茂作氏 この人も御子息貞治郎氏で事解決

△星野清吉氏 名刺と交換でと三分の一

△荒川淺次郎氏 星野氏を先にまわ鎌田へ行つて來なさいこの時星野にはまだ會見出來なかつた一歩讓つて佐藤氏を決めて來たら今度は星野氏へと指踊る荒川さん、アマリオモチャにするないと職人肌合に捨セリフを言へ度なるか左樣なら

△佐藤岩次郎氏 贊意の表示だけして呉れた

△大納土眞氏 製氷會社で直に新聞經營者磐城時報社長作山氏の御實父だけあつて意見もきかして呉れるればハナミにと紳士的トリナシ

△松崎菊三郎氏 今少し援助したいがハナミにと自治團体が政黨政派で爭ふを好まぬとは記者と同意見だか中立團なんて同じ事じやないてせうか、一人一黨是々非々主義はどうでせう

△吉田定太郎氏 定額御子息義男氏の名儀としてだと

△諸橋國松氏 不景氣二分の一也ハダカデこの人多額議員有權者

△大森勇氏 定額御抱負は述へてものします

△萩原義雄氏 種々御抱負もきかして呉れた、マサに新人だけある人並

△阿部太平氏 子供が病氣しましてと三分の一

△吉田五平氏 ボーンと芳名を後ならべたを記者のヒゲへヶゲ返した記者のハラの虫は逆立ちした然し護身用…………靜觀丸は冷やかに「御前の心を靜めよ」とこゝが動中靜觀だ又一つ側らに居つた役場か刑事らしい人、人の部外秘の帳面をゴトワリなしに檢しての批評ナンダイあの人は彼吉田氏は挨拶も何もせずサッサと仕事場へ行つて了つた、この人が町議マルで○○打ち的を仕業アキれてものが言へぬマサカ人違ひでおるまいネ吉田さん記者は吉田氏でなく店員であつて呉れば良いと思つて居るが來合せた安藤辯護士や他の人に聞いて見るとやつぱり吉田五平氏らしい

△森本盛一氏 三度目にやつと會見一回一圓で三圓だとは笑はせる然し御母堂のアシライ正に東京に居られたとか堂々なるもの容待は士方式でない

△阿部政右衛門氏 屋で吾輩中卒の先輩定額

△櫻井清氏 人並にと紹介を期して御抱負は紹介します

△花澤久一郎氏 大谷久藏氏と相談してとこの人大谷氏と情交するかも知れぬ兎に角一人で自分の意志の表示が出來ぬ事は贊成氏と其御婦の持主でアワレなものだ、アマリ吾々同業記者の門口は止しなさい自己を省みてから

△永山義太郎氏 三度目には後姿を見せて逃げた

△青沼鋒太郎氏 二度目に玄關先で、コンナものの新聞では讀む所なし、シリヌグイ位のもの、發行に贊成出來ぬ……不贊成と書かうか、書いたら君が困るだらふ生活を考へす新聞經營するなら二圓三圓なんて斷つたら良いだらふ、とハだかで二圓を立ちながらローカになげ出した吉田氏の帳面をなげだよりは少しこれは天下の共通サッをなげたのだからあまり腹の虫も憤らなかつたが御サッが痛つたとらう強い樣で弱いは記者生活青沼さんいやサ元の石城郡長さん、御身等自ら記者を卑下しては識人が記者の向上をつて呉れる文化人として如何に所謂中立團長でも言論は自由て吾が憲法は認めて居らるゝだらふこんなもの新聞でないとはナンダこんなは讀むんないとは何だ青沼さん御身がざんざん惡口をかけさ筆者を喝しそゝのかした事はマサカ言はなかつたとは申されますまい、兎に角惡い事あるかないかは知らぬが書けといふ所を見るとあるかも知れぬ、旅ひてこんな狹い平でと御しやた何處と比して狹いのか市制準備を控えての大平を建造せんとする秋自らの住む市街を狹いとは何事だ且は元石城郡長でもあり今少し紳士的の人だと思つたら期待に反し實際失望せざるを得ない、あのそら身振りあの國札を打ちなけての態度は如何に旅山生活に入つた氏としてもあまりにコンモンセンスの有さは言はれぬ先つ町議職當時レ清キ一票は自らキャラクターメーキング「人格の建造」と自稱する文化村の植竹、滑川、小松田崎、武川、新妻の諸彦にォ開きしたい

ものは相談

吾々の住む平町政に參與する政治家として社會人としておまりにレイフイン（洗練）されて居らぬ人があるさうすると地方開發のため平町治の爲自重を望むと共に相互にこの地球の表面に、生息する人間同志今少し温みのある人間味のあるツキ合をしようではないか

（訪問直後記）山庄生

自由の詩

凡倉生

某村長他村議十數の人々事實の有無は知らぬが數新、河新、常每等に掲載され、名譽毀損だと告訴へと持込んだ、そして私訴はどうなつたか知らぬが何人のハカライ……檢新聞紙に理解を持つ名檢事の裁量か、近頃取りさげてスンだと、それ法は不可侵なり、事實あらば、檢事も起訴せようし、新聞紙と申せ何かさればならぬ所が村長等何等罪とならず、諸紙又罰せられず、そうすると事實なかつたのか、諸紙の報道が無刑であつたのか何だか彼んだかこの凡倉の頭では判らなくなつたが解けた某村長は石城憲政會常任幹事、掲載した諸紙の○○○派との事だ

森合齒科醫院

植田町に分院新設

平町白銀町森合齒科醫院では植田町に分院新設し齒科醫學士森合院長は隔日奇數日に出張すと

桐原元石城郡長は

朝鮮で水利組合理事

◉石川元朝鮮全州署長は

太久村に歸農

◉朝鮮は全羅北道々廳所在の全州で警察署長をして居つた石川倉吉氏は辭して同署に刑事をして居つた柳井義一君と共に福島縣双葉郡大久村に歸農して居るとの事でこの頃村長になる噂さがあつたがなり損ねたらしい

◉磐中十七回出の草野廉次君に朝鮮で拾年振りで遇つた君は朝鮮全州は完山金融組合又は高山に居つたとかそして昨年迄在鮮したとか筆者はその折群山府に居た

◉全州で齒醫者をして居つた平野井幸太郎君も平に歸つて居る

◉又平で開業して居る新妻醫師も大正九年頃群山に居つたとの事

◉筆者が朝鮮で渡鮮以前の知人に逢つた人は平野井君小林讓三郎君星一氏も來たが小林君が會はせなかつた又、磐中十七回出の北郷君この君は飛行機に助手にとして群山に來た事があるそうすると在鮮六年で故山の知人に過つたはタッタ三人歸郷して半年朝鮮での知人に會つたは平野井君一人

序でながら鮫川水利で失敗して朝鮮に逃げて行つた元石城郡長桐原彦吉氏は目下朝鮮全羅北道益山郡黃登に臨益水利組合理事をして居る筈で桐原さん、鮫川水利は通水相變らずしませんが復治運動は起つて居ます

藤沼氏全快

平町紺屋町藤沼醫院長藤沼平太郎氏は病氣全快し從前の通り診療中である

玉川村

記念文庫創設

渡邊氏の文化奉仕

玉川村大原渡邊渡氏は亡父武雄翁の前名「武雄」送葬の香奠をして農村に文庫を設くる計畫中にて東京の樋口紅葉川村雄、兩氏の盡力を借りて準備中であつたが今回書籍も百七十餘着荷したので玉川村小學校に

渡邊記念文庫

として過日青年團處女會同會會員を招きて開館した事である

フン慨フン飯

公憤私

一寸の虫にも五分の魂あり

◉玉川村の渡邊大君、アレに新聞經營なんか出來得まいだとホイ大サン君には公の仕事に一錢でも奉仕なんか出來得まいが

◉政派の鈴木辰三郎君（僕は磐城民報にも保證金を出し居る、其他の新聞にも關係してゐる、滿更新聞經營に素人ではないとの御宣託、偉い、所謂磐城新聞社長加ひて個人の財整理に迄立ち入つて話及される、銀行業としての言としては……人が幾等援助せうと君には關係ないテ

◉目黒氏發行時の磐城新聞へ筆者四ッ倉町門馬安太郎氏の次男市郎君死亡されたのでその死亡廣告ッタ御禮廣告を申し込んだ、入圓の掲載料をとつて記事に曰く「門馬氏の不孝として門馬安次郎「氏を入れず」次男……だと勿論親より先に死んだら不孝かも知れぬが何故、氏を入れ、不孝位にして呉れぬ

◉途中で逢ふて挨拶をしても答禮ごこのろかヌまし込むのは朔日の八代公行君と所税調査員の永山和平君である、度重なれば敢て常方より敬意を表す必要なしとは筆者の流儀であるアシから……

◉磐銀では專ムがアシか平銀では、幹部が相談して頭取にアハせぬ、

◉平檢事局の宮崎さん、記者同業の向上を力說す同感……ダ、然し

◉本紙の第一、二號を見て宗教、教育者の有志は共鳴して居つたが、ある人々は、アンナモノだとこゝが我が意を得たり

◉平新田町邊りの人、アレが新聞記者だと、アレイは早や學校でも使ひ物にオらぬ……何だい君等の商賈は……暗に咲く惱いふ花の勞動者を虐慘して生きてゐるのだぞ少しは自分を顧みては

▲加藤新君『轍を踏むぞ』又『アレをツブせまい』とナゼ『轍を踏まぬ樣に』『アレを投げねばならない』と云ふて呉れぬ御卑はカッがないか

凡倉深草生活　拾年山莊（三）

雜誌　せいねんいはき

磐城青年統一會發行の第一卷第一號であつた雜誌せいねんいはきを顧るに發行日大正六年十月一日、表紙廣告欄等合せて六十六頁、その詳しい內容は省く事として單に目次は◆吾が徒の志を述ぶを卷頭に、◆ルーサア、バーバンクの話小野庄一、農村の青年諸君に寄す、時の磐城中學校教頭文學士河上和一、以下大正六年當時の官公職地位にて紹介する、◆青年の歸趨、磯原の雜誌巨人社發行人喜多村鍾治、◆青年諸君に問ふ、元和閑主元磐城中學校長楨竹源太郎、◆憲法諸話、一法學博士副島義一、◆農村問題の研究時の農學士那須皓、◆農村の改善、玉川村馬目精一、◆磐城青年統一會規約、◆中央と地方雙葉郡出身時の雜誌一大帝國主幹山田忠正、◆靈的に覺醒せよ、日本基督教會牧師齋藤[illegible]◆文化と宗教、平町長橋[illegible]小島性源等普洞宗住職渡邊則[illegible]、◆第一號に題す、山野邊庄吉、◆祝詞時の農商務大臣仲小路廉、今の衆議院議員比佐昌平、時の平第一小學校長、今の平商業學校長武川教義、時の衆議院議員鈴木寅彦、◆極小は極大に通す時の磐城時報社主幹土屋覺知美、◆東京だより今の文士尾崎士郎（殷山）◆衞生と根氣、鶴龜堂壽即ち南町鈴木醫院長鈴木壽一氏で故人となられた由、◆救世軍とは何ぞや救世軍平小隊副官少尉日野辰夫、◆家庭の[illegible]婦人の心懸一ツ永井柳太郎、玄米飯の炊方村井夫人、◆チャンガラ念佛と宮相撲磐城通信社內上遠野、◆[illegible]雜感比佐友香（時の磐中五で×會幹事目下大阪朝日記者◆新川柳の妙味吉成劍突妨◆茶で腹を脹らせ、磐中卒十五回磐崎村金成主四郎、今は故人となつて居る、郡內舌栗毛の記山野邊庄吉、◆讀者の領分欄に土に歸れ當時磐中五年小野知夫、鳴呼秋は來れり、同赤津汀蘭暴鄉在東京新妻正一、今の平町關內油店主友、鈴木勝彌今の湯本町中野屋店主太陽がみて居る、山村碁鳥、今は故人となつた、◆農民に與へる詩花岡謙二、目下東京に居られるとか、◆處世七戒泉村松井清水五奇山人◆海軍兵學校より鴨遊波を◆少年悲哀、叶多清彌、其他知人消息郡山町と平町、郡山町は早や市制を布いて居る樣だ、家庭笑話飯みと盃表紙口繪は當[illegible]伊東松屋呉服店の岸上幾造氏の平和の神をシンボルしたもので春夏秋冬に[illegible]であつた、前記郡內舌栗毛の記、講演部第一回遊說演題と辯士は、

醒め出づる青年　小野保
感ずるまゝに　驚清章
吾人の主張　酒井貞三
青年の奮起に俟つ　山野邊庄吉
何が故に　加藤新
精神的要求　高木保
赤き血の持主に訴ふ　小野庄一
自治に就いて　安藤琢磨

銘酒　玉の井
釀造元　長瀬半五郎
福島縣石城郡玉川村

右は小名濱町に於ける演題で所に依つて演題も異り辯士の増減はあつた、是の誌への援助と廣告主は星製藥會社時の夏井川水電株式會社平町白井博之、釜屋滑光堂、塩屋、瓦斯會社、植田湯本、玉川、小名濱其他町村等の有志合せて百五件であつた右機關誌は月一回一日毎月發行の予定であつたが都合により同年十二月は休刊して大正七年一月一日啓發運動と改題して新年號を出した、

湯本
溫泉旅館
松柏館
電話五番

雜誌（啓發運動）

磐城青年統一會發行第二卷第一號、表題は伯爵大[illegible]遠吉氏筆卷頭に新春の辭農村の自覺を促し、◆社會事相の兩面と題して時の早大在校泉村小休謙次郎、◆淺薄なる文明肯定を笑ふ花岡謙二頭の人と手の皮の厚い人觀小野庄一、◆憲法講話、二、法學博士副島義一、◆自治開發と戰時[illegible]文學博士井上友一、◆郡山より山野邊庄吉、◆農村疲弊と其の救濟策時の早大在學大森義一、◆農村衰微と青年の自覺驚清章（錦村）◆中等敎育を受くる諸君へ山野邊庄吉、◆甘じて椽下力石となれ安藤琢磨、◆磐城名所舊蹟案內、野田の玉川、◆論講武大要、泉村松井帶水◆感謝論、救世軍日野辰夫、◆婦人の領分として母としての見識の持方文學博士三宅雄次郎、◆化學小話雪と雨時の小名濱居住丸山直一◆小學生の作文として玉川の星野タヤ其他◆知人消息として星一…比佐昌平其他◆産業組合に就いて時の早大在學中若松修一、◆物價の騰貴について時の早大在學中加藤新、◆血氣ある青年の踏むべき道、植田小野保、◆磐城人物紹介として江尻中、◆玉川村強七福として山野邊金次郎氏の兒福を、◆磐城辯論會記、◆小學兒童の人命救助として玉川野田小松忠年が女兒を救助して時の川崎知事に表彰されし事、◆統一會各支部の位置、詩壇に會田紅鳥赤津汀閑、小野知夫等の當時磐中五年生是の誌の援助廣告主は今は故人となつて居るが小名濱町選出縣會議員小野賢司、又は金成通氏を初めとし郡山、山形縣等合せて約二百件であつた、

何が故に廢刊したか

此處に統一會の雜誌は號にて終つたのだが、何故に二號で終つたかは、世評に任するが筆者として此處に一言せねばならぬ、丁度新年號の啓發運動が出でから後筆者は突然病魔に犯さる事となり、平町に於て醫師の世話、ならねばならなかつた何でも下宿屋は紺屋町の大川屋であつたと記憶して居る、この病氣のため、雜誌の廣告料や購讀料も集めるを出來なかつた、こういふものであるから小野庄安藤琢磨の諸氏から矢の樣なる執務の督促が來る、小野庄一君なんか態々下宿屋にやつて來て病床にさめる何とも出來ぬ、そこで一切關係を絶つ事となり小野保君がやる事になつたかどうか知らぬが保君が使となり筆者の實家に留守の所へ行へつて關係張面其他取り上げたものだ、勿論兩雜誌の印刷費は小野庄一君が出資したのであらうが約半年近く其間自費を出して石城郡は勿論郡山迄活動を續けたその旅費又は社の一切帳面印用紙等のその費用は何處からも出て居らぬ、皆々筆者が自辨したものである然し雜誌が出てから三十圓足らず廣告料を筆者は右社費用に支拂つて居る當時は廣告料なんか前金を出すものなく發行後集金したもので手數は二重にも三重にもかゝつたものだ、その三十足らずの融通に對して安藤君なんか盛んに筆者に償はしめよう……告訴……せんとしの者だ勘定から感情へこうなると筆者は何んだか初めは共同經營といふのに筆者が安藤小野氏等の使用になつた觀があつたこうなれば筆者は月給又は手當請求の權利があるものと解した、此の間に筆者對、安藤、小野氏等に衝突があつたので尼子亭の評議員會を開いたがその會合はどうなつたか知らぬ……が……その末集金額を筆者に集めさすれば確かに集めて見たし二雜誌は終らなかつたらうと思ふ……事の此處に終つたのは是非もないことで小野庄一氏等遺憾としたであらふが筆者はより以上心外に堪えなかつた其他問題についてものしたき事があるが此處には云ふのを避けるが……右兩雜誌の廣告料や講讀料を支拂はずして濟んだ御歷れきがそこらそんじよに、澤山あつたと思ふ歷史なども裏面史を見ると想像以外なもので、此處自他ともに裏面史はさけて進めることゝするが事は事として紹介して行たいが要するに勘定が感情で物別したのだつたと思ふ……同志は今何處か……それはそれとして時の統一會の人々はどうなつたか、農村開發と何とか大分理想めきて社會に否な地方振興と名分は良つたが今尚ほ統一會は存續して居るか筆者は知らぬが、安藤琢磨氏はその後辯護士になつた由朝鮮に入つてからハガキが同氏よりあつた、比佐昌平君は這回の逐鹿戰で見事星一君と戰つて榮冠を得た相だ、小野庄一、加藤兩氏は植田常磐工業とかを組織して請負業をやつて金貰けをして居るとの事。驚消章君は政友會否な星一氏の製藥に入つて歷史編輯長をしてたるとか、高木保君は相變らず小名濱町の收入役で納つておる、小野保君は植田で平に本社を有する東北實業とかの支局を、經營しておる酒井貞三、門馬公平兩君は農家で農夫生活をしておる。其他當時の統一會員……健在なりや、やはり理想なは、生活の爲めにイな職業なくしてはイなその間に情實もあらふ、驚消章君なんかは嚴父が政友系統の關係上星製藥に入るのは、當然であらふし、若松修一君なんかも當時統一會の幹部だつたのだがやはり父の關係上止むを得ん事情があつたであらふと云ふ事を聞いておる。か樣にかくと何か統一會は比佐昌平君の機關でもあり憲政會の別働隊の如く見られるがその當時はそんな事はなかつたのだが今から考いて見るとそうであつたかも知れぬ。何が故にて申すに比昌は勿論[illegible]は比氏友情關係だらふが憲政會の人であり小庄然り、加新もその派幹事となつて居る、

感激より家居……前述の如き事情から統一を去つて家庭の都合もあつたから自村玉川村に入つて又も農夫となつた。その理由は他になく長男である家兄が家出したからだ、兎に角家兄の留守をあづかつて母を助けて家居の止むなきに致つたと當同時に青年團長。消防組等にも關係させられたその時は既に父を亡つておる老母のみで他に下姉もあつたが三町近くの田と二町足らずの畑を作るには如何に手間取りを頼んでも骨が折れた。當時は玉川村の村政も腐敗し切つておつたので今の立憲新報の小泉宗雄、辯護士の山野邊義政、鈴木勝彌。佐竹智吻其他青年同志と謀つて玉川村政廓清期成同盟會を組織して演說會を開くやら時の村長鈴木常次郎氏に自決をセマリ又村長代理宮內虎之助等にその善處を迫つたものである、時の收入役であつた野田の某氏はレイゴの人となつた等玉川村治は擧あであるその後をうけて村長になつたのが現任永井億彌氏である字に在つては崇神[illegible]味から青年團で山野神々社に幟りを奉納し、村社八坂神社には鳥居を建てた又磐城タテには在軍消防組青年と共力して忠魂碑を立てた在軍では駒木根忠三君青年ではかく云ふ筆者が中堅となつて骨をおつたものだ尚ほ自分の家である岩出より住吉に通ずる道路の改修を企てたが其實を上げ得ずして渡鮮してしまつた。家兄は家出しておるしその間の整理も大分出來次弟が徴兵檢査も了へて次弟の性格農を好み直を知つて後事を託すも大丈夫と云ふ信念を得たからである。【つゞく】

平町白銀
森合齒科醫院
森合考男

會席
谷口樓
平二丁
電話八番

平町五丁目
和洋銅鐵
金物問屋
久
釜屋商店
店主　諸橋久太郎
振替貯金口座東京一〇九五六番
電話長九番　一三九番

祝發刊
賀商
多田井笑次郎
平町大工町

平町田町五五
辯護士　山野邊義政
法律事務所
電話六二五番

祝發刊
足袋仕立商
高橋升次郎
小名濱町中島

祝發刊
常磐線平驛前
平驛公認運送組合

祝發刊
衆議院議員
比佐昌平
湯本町

日本石油株式會社專屬
海岸線特約販賣店
平町二丁目
諸油類
度量衡器
販賣
清
關內油店
店主　關內正一
電話四六〇番
支店油所

祝發刊
湯本町
町長　高木己之吉
町會議員　石川德壽
消防組頭　木村順平
區會議員　比佐賢司
比佐源造
鯨岡久二郎
佐藤德兵衛
鈴木唯七
鈴木道太郎

---

no. 3

平新報

月三回
五ノ日發行
發行兼編輯印刷人　山野邊庄吉
發行所　福島縣平町田[illegible]一九
平新報社
廣告料　五號十二字詰
一行一回金[illegible]
場所指定倍額
定價一部　郵送共拾錢

二―參錢ボス

◎綴驛頭にて私[illegible]

▲所は石城郡內鄉村近での活劇を、時は[illegible]月頃だつたか、ある青年が[illegible]男に打れ、又[illegible]して居る、これを綴驛長は默つて見ぬ振りをして居[illegible]この青年は何故打たれて居るのか、[illegible]この青年はその衆人の前で打ち居るデモ紳士の族[illegible]して炭礦附近有志に新聞援助廣告を求たとの事實の所その青年は右デモの親戚でもなんでもな、彼デモも憤怒の極腕力制裁を加へたのである、丸で私刑だ何故擲たねばならぬかそれ程心外に堪え[illegible]明には新聞[illegible]默つて打たれて居る青年は[illegible]丸青年としてこの非紳士的處置についてこのデモの[illegible]

[illegible]所平町某町議のうちでは時[illegible]待合の許可を得たらよから[illegible]ふ新田町雀▲不[illegible]ナ料亭けこんで[illegible]

聲明

動勢こうなりや
第一線に立ちて
主幹　山野邊庄吉

▲人の惡いは磐城の平と聞いて居つたが以前居つたときはそうとも思はな

富と比して……が新聞の多い稼結構、なぜかならば若し某銀行に不正事

りては攻勢に出でねばなるまい、本紙の出現を妨げた人々……筆者は不意打ちはやらぬ、戰は須く堂々たれ、君等が本紙を財的に虐げ樣とならば當方も財的で攻め樣、

業者地位の向上に力むを是れ吾々文化事業として進むに易からしむる術ではあるまいか

▲新聞の爲に寄せられた等といふ人は己れを知らす己れが欠点を棚にあげて居つての見地ではあるまいか、新聞紙に依つて得た利益を忘れてではないでせうか、操り返して曰ふが若し現代に新聞がなかつたら？官金の橫暴？は封建時代と等しいものとなりはせぬか、此處に於て吾々同業の責任と使命の重大さを深感するものである、

▲筆者將に第一線に立つに臨み聲明の一端をなし新聞紙に對する理解運動をなさんとするのである

風光！

磐崎村延德寺

たは實に嬉しい、好漢惜むらくは金に惑されてゐない。今汚たる不拘操觚界に何等背景なしにうつて出た心掛けに非とせねばならぬ、只今後は娼婦に似たる職業に堕せられざらん事を思ふものである。

磐城立憲新報　曰く

小泉宗雄氏經營

玉川山野邊庄吉氏は多年朝鮮に在住操觚界の戰線に立

人諸君……私は除外例として兩親同胞さては二世を契りし愛人の上に思ひを走せても他の記者諸君をもう少し優待して下さい理解ある態度を以つて記者を迎接して下さい。

△記者は由來『嫌がる善人』だ。コノ世路辛らき世の中に一管の筆を以つて文筆勞働者生活を營む事は全く以

『人生不如意』『人世無情』と喞つその美的ソシャリストにも以たる哀感は、嫌がる善人、の群…記者諸君の身の上にもないではないか。記者……藝者……職業は違へど等しく余りめぐまれざる生活を送るものだ。少くとも故山石城平に於ては。記者に役德なく。藝者に祝儀なし呵々

◉豫告！

▲湯本町

資本家（炭礦經營者）のため慘害されたか、利

一八會友動靜

◉磐城中學校第十六回卒業

◉長瀬元治氏帝大法科出身縣後鐵道省在勤目下住所東京府下高田町雜司ヶ谷古木田四七五

◉比佐榮一氏慶大卒、湯本町過般夫人を迎ひて松梅館若主人として納つて居る

◉山野邊久利氏一昨年朝りまで平税務署に居つたのうだが目下[illegible]